

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ほだきのとっと		
○保護者評価実施期間	2025年3月19日		～ 2025年4月9日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 1
○従業者評価実施期間	2025年 3月 28日		～ 2025年 4月 4日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○訪問先施設評価実施期間	2025年 3月 28日		～ 2025年 4月 11日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 4月 14日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・訪問後の振り返り(先生との話)を時間をかけて丁寧に行うことで、子ども理解を深めたり、先生との関係を築くことができている。	・学校側の都合や忙しさを聞きながら、振り返りの時間を調整している。 ・先生側の願いを汲み取りながら、それとは別の視点を取り入れることで、子ども理解や支援の在り方をじっくりと探ることを目指している。	・先生との話や支援の考え方等、事業所内で実践知を共有しながら、読書会や外部研修等によってスタッフ自身の研鑽にも努める。
2	・振り返りでは、基本的には児童本人や保護者のニーズと中心に取り上げるが、それとは異なる先生のニーズも振り返りの中で積極的に取り上げ、学校現場の状況を理解し、先生という立場からの視点をなるべくクリアに想像している。	・福祉現場とは違う、学校現場ならではの文化や理屈、制約があるので、まずはそこを理解しようとする姿勢を大切にしている。その理解があるからこそ、先生と支援員がお互いに共有できる言葉やコミュニケーションが作られていき、お互いの捉えや解釈がだんだんと近いものになり、別の視点を入れたとしても、齟齬が少なくなる。	・訪問支援を積み重ねながら、先生との関係を作るだけでなく、先生を通して他の先生とのつながりを作り、さらには学校とのつながりを作る、そうしてお互いにとって意味のある支援を形作っていく。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・単独で訪問に行くことのできるスタッフが限られている。	・訪問の入り方や支援の考え方について、事業所内での共有や検討が十分にはできていない。	・様々なスタッフが訪問に関わりながら、訪問の経験を積む。 ・訪問に関する事業所内でのミーティングや研修を充実させる。
2	・定期的な通信やホームページ・SNS等での情報発信。	・訪問支援は利用している児童が限られており、訪問単独での情報発信は行えていない。訪問自体も不定期利用が多いため、定期的な発信は難しい。	・訪問については、不定期ではあるが、既存の媒体(遊びよりやブログ)に情報を載せたり、ホームページで訪問に関する情報を更新するなどの工夫をする。
3			